

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和6年度）

基本方針	4.力強い地域経済の創出	農産物の付加価値を上げ、競争力を強化するため、農地の集積・集約化のほか、スマート農業の導入など技術革新により農業者の生産性・収益性の向上を支援します。また、新規林業従事者及び次世代の後継者の育成に取り組みます。さらに、農畜産物の販路拡大、農商工連携など農業所得の向上に取り組みます。
基本施策	4-2.農林業の競争力強化	
関連するプロジェクト	4.イノベーションチャレンジプロジェクト	

評価項目

A順調

B概ね順調

Cやや遅れている

D遅れている

総合評価

B

R6事後

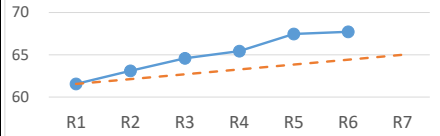
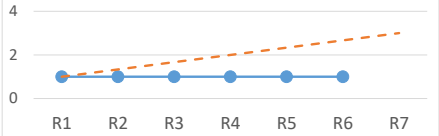
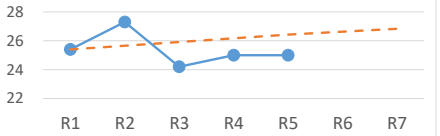
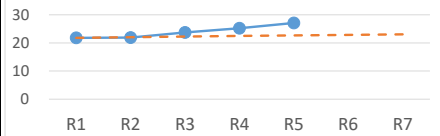
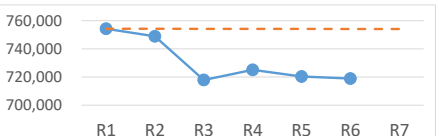
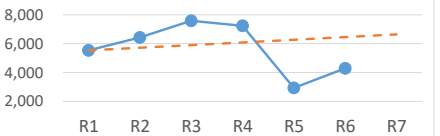
8

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析			今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)	
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	農林部	●	効率的な生産体制の構築	①	指標に基づく事実	ア)農業の中心経営体への農地集積率は、67.72%であり、期待値を上回っている。	A	指標に関する内容	ア)農地集約化検討会の運営を支援し、集積への機運を高めたことによる。	指標に関する内容	ア) ・「地域農業マスタープラン(地域計画)」が法定化され、R6年度末の告示に向けて取り組んだことにより農地集積が進んだ。 ・離農者が発生した時には地域の中心経営体が担うことにより、集積率が上がった。 ・農地所有者の高齢化により自作から担い手への賃借が増加した。	ア) ◇効率的な生産体制の構築には、高性能な機械等の導入や共同利用施設の整備が必要となることから、補助事業の活用を促していく。 イ) ◇10年後の地域内農地の将来像である「地域農業マスタープラン(地域計画)」達成のため、各地区が主体となって農地の利用集積に取り組んでいくようサポートを継続する。
					指標以外の事実	ア)国、県が実施する機械・施設の導入補助金を活用し(8経営体が導入)、低コストで効率的な生産体制構築に取り組んだ。 (国庫補助は産地パワーアップ事業(麦・豆)6経営体、県補助はマスタープラン実践支援2経営体が活用) イ)各地区で開催される農地集約化検討会において、農業委員会や農業支援センター等関係機関参加のもと話し合いを行い、連携した取組が進んだ。	(A)	指標以外の内容	ア)低コストで効率的な生産体制を図るための補助事業導入を進めた。 イ)地区の話し合い開催に向けての調整を関係機関と連携しながら進めた。	指標以外の内容	ア)省力化やコスト低減を図るための先端技術(ドローンや自動操舵システム等)が進歩している。 イ)各地区の農地集約化検討会は毎年継続して開催されていることから連携が進んでいる。	
2	農林部		農業基盤整備による効率的な生産体制の確立	②	指標に基づく事実	・基盤整備(圃場整備)事業準備団体数は、1地区(33%)であり、期待値を下回っている。	D	指標に関する内容	・R6年度新たに、1つの地域において、地域の中心的な担い手が基盤整備事業実施に向けた会議を開催。土地改良区が説明を行うとともに、市が資料提供(農業振興地域図面)を行った。 ・R5年度までに、市内各地域において制度説明会を実施し、参加者から一定の理解を得たが、将来の農業経営の不安等から、圃場整備へ踏み切れないとの意見も出されている。	指標に関する内容	・基盤整備(圃場整備)の実施には、地権者全員の同意が必要であるが、高齢化や後継ぎ不在などの課題や将来の農業経営の不安等が事業の実施に向けた大きなハードルになっている。 ・基盤整備(圃場整備)事業の採択までに長期間を要しており、事業準備団体においても、地域の意欲が低下してきている。	◇10年後の地域内農地の将来像である「地域農業マスタープラン(地域計画)」達成に向けた取組を、地域が主体となって取り組む中で、基盤整備(圃場整備)について改めて、より具体的な説明などを求められる段階となった場合には、その地域の実情に沿ったサポートを県や土地改良区と協力して実施する。
					指標以外の事実	・基盤整備(ほ場整備)事業の推進に向けて、H6年度以降約30年間休止していた地籍調査事業をR6年度より再開した。 ・口内町水押地区のうち、口内町中野及び森の一部について、R7年度からの地籍調査本格実施に向け、事前調査を行った。	(D)	指標以外の内容		指標以外の内容		
3	農林部	●	農畜産物の生産性及び品質の向上	③④	指標に基づく事実	③果樹(りんご)の産出額は前年度に比べ下回ったが、米・ねぎなどの産出額が増えたことから全体の産出額は横ばいとなった。(R5年度実績) ④豚の産出額が増加し畜産全体の販売額が増加した。(R5年度実績) ※R6値は未公表である。	A	指標に関する内容	イ)重点振興作物の新規栽培や面積拡大を対象とした園芸産地ブランド推進事業により野菜、果樹の栽培に係る資材等に補助金を交付し栽培面積が拡大した。	指標に関する内容	ウ)花巻農協各部会(野菜、果樹)の生産技術の習得への取組により、全体の出荷増につながった。	◇国、県をはじめ市の各種補助金(重点振興作物強化事業、園芸産地拡大支援事業、先端技術機器等導入支援事業等)の活用を促し、農畜産物の生産性及び品質の向上に向けた取組を進め、農業経営の安定化を図る。
					指標以外の事実	ア)先端技術導入支援事業(5件)を導入し、生産効率の向上やコスト低減が図られた。 ウ)農業支援センターで就農相談を受けるほか、各農家に出向いた巡回訪問等による支援を行った。	(A)	指標以外の内容	ア)R3年度から生産効率の向上やコスト低減を図るため、機器導入経費を支援している。 ウ)農業支援センターと連携した「サポート連絡会議」を毎月行い、日常的に情報を共有した。	指標以外の内容	ア)R3年度から継続して機器導入経費の支援を継続していることで、制度の認知度が高まった。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	農林部		農業の多面的機能の維持	多面的機能支払交付金制度及び中山間地域等直接支払交付金制度を推進することにより、水路や農道等の維持や機能向上、補修や改良などの地域共同活動を支援し、地域全体の農地等の適切な維持管理を促し、農業が有する多面的機能の維持を実現する。	⑤	指標に基づく事実	・多面的機能を維持するためには、多面的・中山間の取組面積を維持する必要があるが、R6年度は718,882aであり、前年比0.02%減となった。また、期待値からもやや下回っている。	B	指標に関する内容	・多面的機能支払い交付金を継続して活用できるよう、R5年度をもって事業計画が終了となった組織(32組織)全てをR6年度に再認定した。 ・交付金制度の申請手続きは複雑で、特に高齢化が進む地域では対応が難しくなる場合があるが、地域に寄り添ったサポートを行い、申請を希望する地域は全て再認定となった。	指標に関する内容	・農地の宅地化や耕作放棄地の増加により、制度の対象外となる面積が増えている。 ・担い手の高齢化に伴い、作業時の身体的負担が増加し、事故防止や安全管理へ配慮しながらの活動となっている。	◇多面的機能支払交付金制度及び中山間地域等直接支払交付金制度を通じて、地域全体の農地等の適切な維持管理及び農業が有する多面的な機能が維持されるよう、交付金申請のサポートを継続する。
						指標以外の事実		(B)	指標以外の内容		指標以外の内容		
5	農林部	●	森林整備と森林資源活用の促進	森林経営管理事業を推進することにより森林の施業集約化を促し、意欲と能力ある林業経営体の支援を通じて木材産業実需者への安定的な木材供給と市内森林の整備を実現する。	⑥	指標に基づく事実	・私有林からの素材生産量(生産された木材を出荷した量)は4,296㎡であり期待値の66.5%だったが、前年より1,363㎡増加した。	B	指標に関する内容	木材流通促進事業補助金で、私有林からの素材生産量の増加を支援した(私有林の素材生産量4,296㎡のうち、2,987.5㎡(補助件数30件))	指標に関する内容	・素材需要量は、全国的にR3年度以降減少傾向にある。 ・全国においては、素材供給量のうち国産材はR5より2.7%減少している。 ・当市においては、木材の主要受入先の事情によりR5に大きく減少したが、その後は回復傾向である。	◇「北上市森林経営管理促進の取組方針」に基づき、森林経営管理事業を推進していく。 ◇地域での林業に関する座談会や個別相談会を開催するほか、順次、森林所有者の経営管理の現状についての意向調査を行う。 ◇新たに「森林整備支援補助金」及び「北上市作業道等保全支援事業補助金」を実施し、森林所有者の負担軽減に向けた取組を進める。
						指標以外の事実	・森林所有者の持続的な森林経営を促進し、適切な森林整備の推進を図るため「北上市森林経営管理促進の取組方針」(R7.4施行)を策定した。 ・森林の施業集約化を促すため、R6年度に新たに1地区を対象とした森林経営計画の作成を支援した。 ・木材供給による地域経済への貢献と森林の健全な成長促進のため、市有林において、間伐等を実施した。	(B)	指標以外の内容	・地域から要望のあった集約化対象森林において、施業方針案を地域と打合せ、対象森林所有者に説明会を開催するとともに、意向調査を行ったことが森林計画書の新規作成に繋がった。	指標以外の内容	・国産材よりも安価な輸入材が市場に多く流通しており、国産材の価格競争力が低下している。 ・意欲と能力のある森林経営体数は、R6に4者となり、前年より1者増加した。	
6	農林部		兼業農家等が農業を継続するための支援	認定農業者や中心経営体といった担い手だけではなく、兼業農家も含めて地域農業を支える必要があることから、農業を継続する兼業農家等への支援を行う。	未設定	指標に基づく事実		A	指標に関する内容		指標に関する内容		◇国、県をはじめ市の各種補助金(重点振興作物強化事業、園芸産地拡大支援事業、先端技術機器等導入支援事業等)の活用を促し、兼業農家が農業経営を継続していくための支援を継続する。
						指標以外の事実	・機械の共同購入費補助(2件)及び先進技術を応用した機械等の導入補助(5件)を行い、兼業農家が農業を継続していくための支援をした。 ・共同購入(R3年度3件、R4年度1件、R5年度4件、R6年度2件) ・先端技術(R3年度8件、R4年度8件、R5年度15件、R6年度5件)	(A)	指標以外の内容	・R3年度から生産効率の向上やコスト低減を図るための機器導入経費を支援している。 ・農業者や関係機関が集まる場において積極的に事業周知を行った。	指標以外の内容	・市内でもスマート農機への関心が高まり、導入する経営体が増えた。 ・R3年度から継続して機器導入経費の支援を継続していることで、制度の認知度が高まった。	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
農業の中心経営体 への農地集積率		中心経営体(地域における農業において 中心的な役割を果たすことが見込まれる 農業者)へ集積された農地面積の割 合								基盤整備(圃場整備)事 業準備団体数(累計)		県営調査地区採択前のほ場整備事 業促進協議会等、地域で組織され た団体数。								野菜(いも類、果樹等含 む)の販売額		東北農政局で公表している市町村 別の推計 ※1年遅れで公表される							
		R1 (現状値)		R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)		R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)		R2	R3	R4	R5	R6	R7
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位								
農林部	%	実績値	61.55	63.1	64.58	65.43	67.46	67.72		農林部	団体	実績値	1	1	1	1	1	1		農林部	億円	実績値	25.40	27.30	24.20	25.00	25.00		
		期待値 ※R7は目標値	61.55	62.13	62.70	63.28	63.85	64.43	65.00			期待値 ※R7は目標値	1	1	2	2	2	3	3			期待値 ※R7は目標値	25.40	25.66	25.92	26.17	26.43	26.63	26.83
		備 考										備 考										備 考					未公表		
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
畜産物の販売額		東北農政局で公表している市町村 別の推計 ※1年遅れで公表される								多面的・中山間の取 組み面積		多面的機能支払交付金及び中山間 地域等直接支払制度の交付対象と した面積。								私有林からの素材生 産量		私有林から生産された木材を出荷 した材積の集計。							
		R1 (現状値)		R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)		R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)		R2	R3	R4	R5	R6	R7
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位								
農林部	億円	実績値	21.80	21.90	23.70	25.20	27.10			農林部	a	実績値	754,249	748,874	717,881	725,067	720,398	718,882		農林部	㎡	実績値	5,533	6,433	7,586	7,236	2,933	4,296	
		期待値 ※R7は目標値	21.80	22.02	22.25	22.47	22.69	22.87	23.05			期待値 ※R7は目標値	754,249	754,222	754,194	754,167	754,139	754,112	754,084			期待値 ※R7は目標値	5,533	5,718	5,902	6,087	6,271	6,456	6,640
		備 考						未公表				備 考			4組織が減							備 考				受入困難			
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位								
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位								
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位								
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							